Beyond the Sea
兎陸☆　&　オリーブ　歌合わせ

ずっとあなたのことが好きだった
一番最初に会った　小さな子どもの頃から
ううん　もっとずっと前
きっと生まれてくる前から
ずっとずっと好きだったよ

傷つけるためだけにいる俺の手を
はなせねえのもアイと呼べんの？　兎陸☆

傷ついてなんかいないと強がって
赤くなった目　俯き隠した
オリーブ

『丁度いい場所にあるから』君の髪、撫でる。瞳はあわせずに　いる。

兎陸☆

マフラーが髪につくったまるい癖　梳いてくれた指ずっと忘れない

オリーブ

指先を絡めるポッケ　離さなきゃならない手　でも。今は、今だけは。。。

兎陸☆

あの角を曲がった先で指ほどく『今』が終わるまであと十六歩　オリーブ

指じゃなく俺を解(ほど)けよ。君にしか解(と)けない結び目がまだココに。。。

兎陸☆

ためらいに気づいてたからぱっと手を離して陽気にまたねって言った　オリーブ

『またね』って、絶対じゃない。わかってる。君が誘(いざな)うシンチレーション

兎陸☆

やさしさをゼッタイ見せないやさしさがあること知らない真冬のスピカ

オリーブ

『笑ってな。そのほうがいい。』何気なく僕は言ったね。あれから君は。。。。

兎陸☆

泣き方はもう忘れたの　帰り途ミントのガムはいつもより辛(から)い

オリーブ

『これだから。。。』『夜更けに書いたメールって。。。』
『だめだ。』『出せっか。』『乙女か。』『俺は。。。』　兎陸☆

『。』だけのメールの意味を考えてマシュマロ浮かべる夜半のココア　オリーブ

『とりかえしつかないことをしちゃおうか』送れなかった君へのメール　オリーブ

すぐにでも、駆けつけられるようにして　ないフリをして、待ってたメール。
兎陸☆

もう君を困らせないって決めたんだ　あの日の海で泣いてごめんね　オリーブ

好きなひといるって聞いた八月の海最初から妹だったね　オリーブ

友達は笑い飛ばした恋だけど君だけは応援してくれた　兎陸☆

幸せを祈る気持ちは苦しいよハマナス野原素足に絡む　オリーブ

いつだって俺の代わりに泣いていた　俺の代わりに怒ってくれた　兎陸☆

『おめでと』と笑えば開く雨傘の表層すべる幾多の飛沫　　オリーブ

『妹のようなもんだ』が免罪符　君とずうっと離れないため　　兎陸☆

『妹のようなもんだ』とあいまいなわたぐもわたあめざらめが痛い　　オリーブ

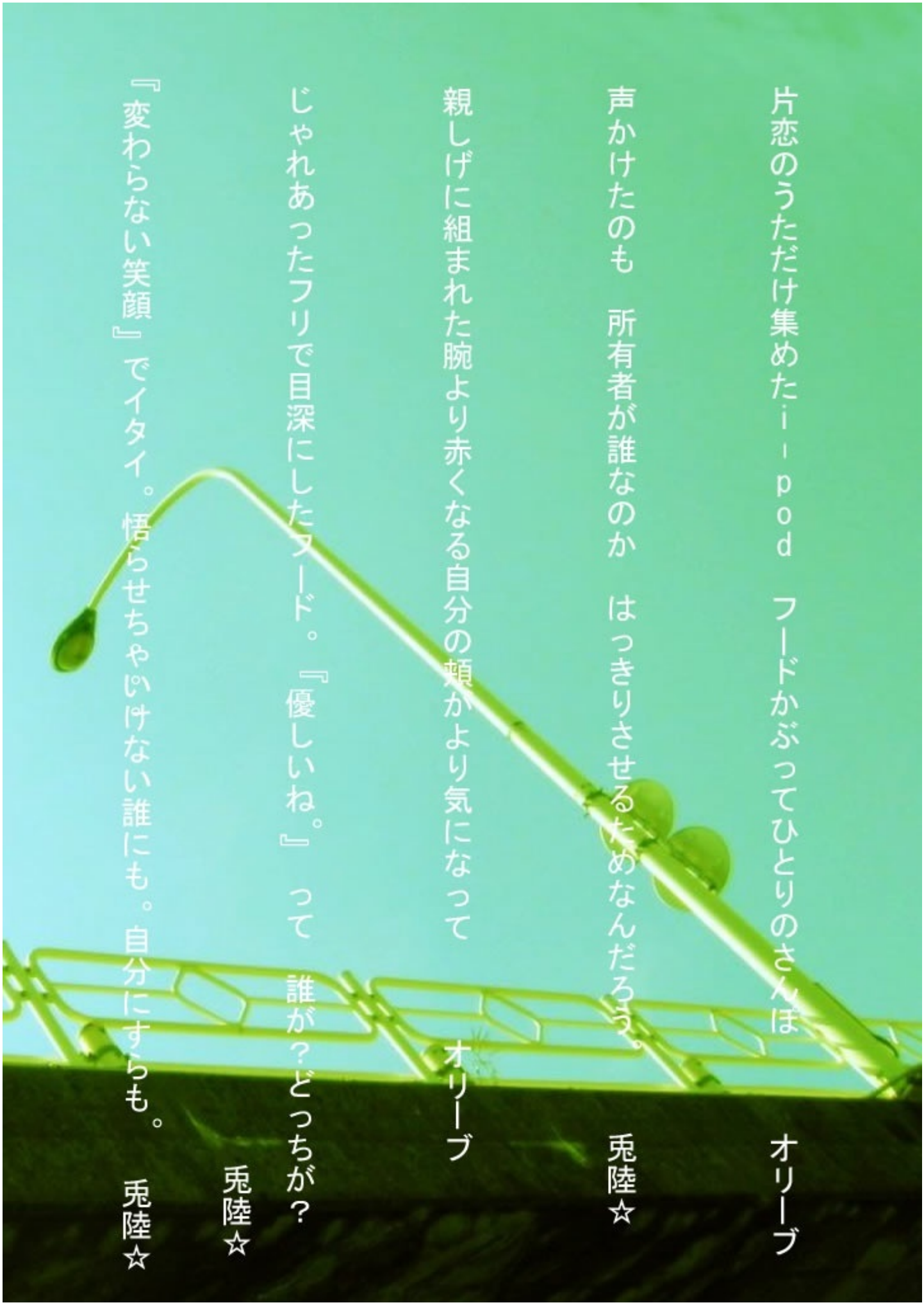
目の前の女性(ひと)より携帯気にしてた。

理由が君で　あればあるほど。。。

兎陸☆

好きなひといるのって聞かれて答えれず

ガールズトークも苦手になった　オリーブ



片恋のうただけ集めたｉ－ｐｏｄ　フードかぶってひとりのさんぽ

オリーブ

声かけたのも　所有者が誰なのか　はっきりさせるためなんだろう。

兎陸☆

親しげに組まれた腕より赤くなる自分の頬がより気になって

オリーブ

じゃれあったフリで目深にしたヌード。『優しいね。』　って　誰が？どっちが？

兎陸☆

『変わらない笑顔』でイタイ。悟らせちゃいけない誰にも。自分にすらも。

兎陸☆

無意識に口ずさんでた。あの海で泣いてた君の大好きなウタ。　兎陸☆

自転車の後ろに乗せてね風切れば悲しいうたも空に飛んでく　オリーブ

しがみつく君の温もり。遠回りして帰ろうよ、いつもみたいに。　兎陸☆

シリウスもペテルギウスも駆けてゆく（このままいっしょに道に迷おう）　オリーブ

曖昧な月に照らされ揺らされて。このままで　いい　わけ　などなくて。　兎陸☆

ほほえんだやさしい目がすき　ときおりに揺れる不安のわけを教えて　　オリーブ

胸の音　気付いて黙りこんだ君　いつもみたいに笑ってみせて。　兎陸☆

じゃれたふりして抱きついて　固まった肩に行き場を失った指　　オリーブ

壊したくない　離したくない　揺れる。。。　僕を見上げる君の目の僕　　兎陸☆

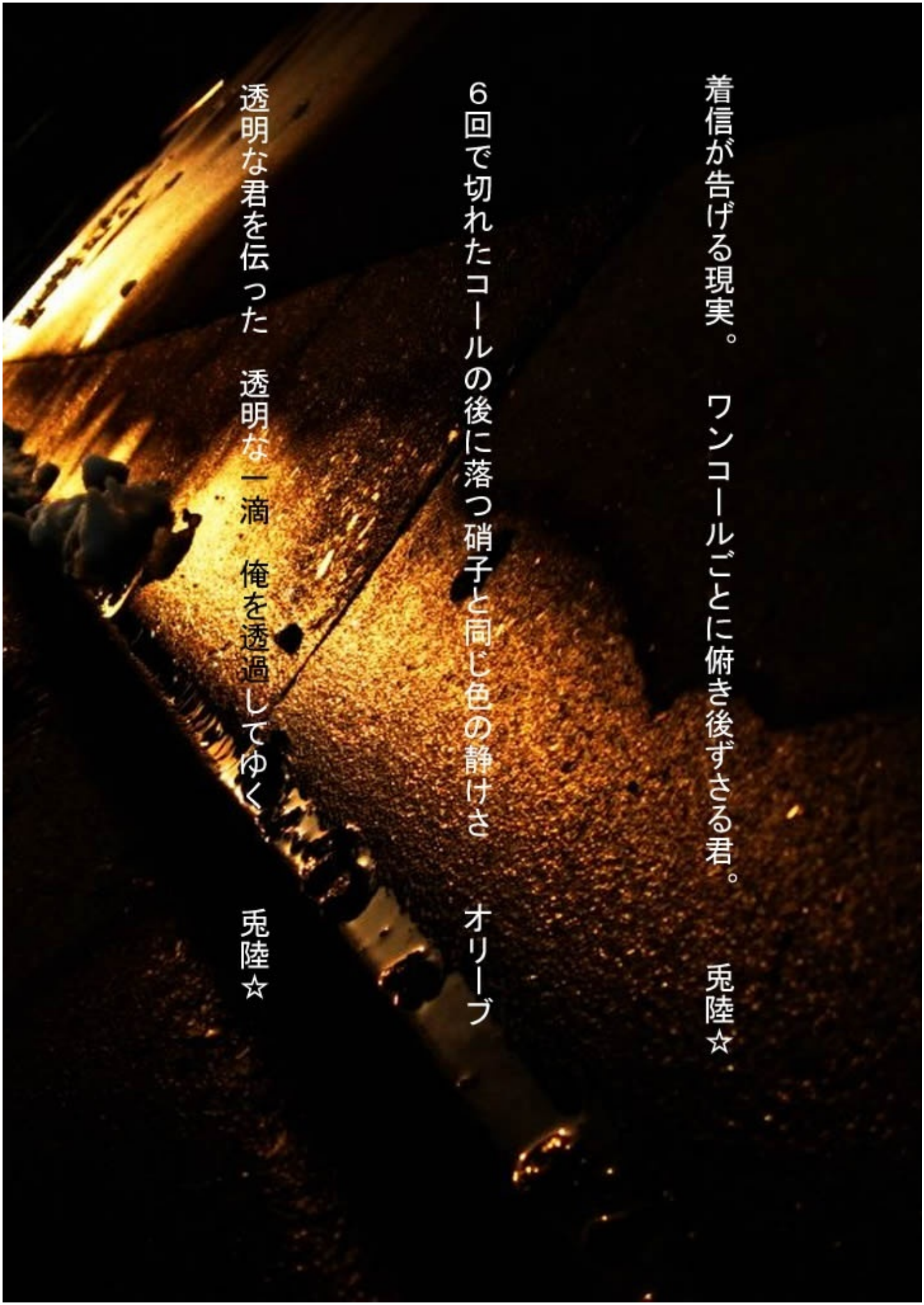
少しずつ　君が育てた感情を　抑えることは　もうできなくて。　兎陸☆

夕暮れに手を取り合って帰った日　境目(あわい)消えゆくオレンジの波　オリーブ

不安などなにもなかった　繋いだ手と手。背伸びした二人の未来。　兎陸☆

花びらの碗でままごとした庭でおとぎ話の夢描いてた　オリーブ

まだ大きすぎるサッカーボール。目の前にはいつも微笑んだ君。　兎陸☆



着信が告げる現実。　ワンコールごとに俯き後ずさる君。

兎陸☆

６回で切れたコールの後に落つ硝子と同じ色の静けさ

オリーブ

透明な君を伝った　透明な一滴　俺を透過してゆく

兎陸☆

あの距離を越えてしまうことできなくて　ひとりバスタブ沈む夜の淵　オリーブ

なんで俺　こんなに君の事ずっと考えてる？　と　考えている。　兎陸☆

降り出した雨は夜半を染めてゆく　メールをたどるチョコレートキャラメル　オリーブ

夜明け前一番深い闇照らす感情一つ。名も付けられず。　兎陸☆

虹が立つ朝はナミダを乾かしてひかりに向かう赤い自転車　　オリーブ

プリズムに導かれてく。　この先に君がいる。って、はっきりわかる。　　兎陸☆

交差点ごし気がついた目が合って　消えゆく虹と止まりゆく時間（とき）　　オリーブ

光差すゼブラゾーンの真ん中で見つめあう先　赤の点滅　　兎陸☆

おはよってなんでもないよに笑うからいつもみたいに髪をなでてね　　オリーブ

手をとって引き寄せていた。なにもないような素振りをさせたくなくて。　兎陸☆

コート越し重なる鼓動　呼吸さえ忘れてしまう君の腕の中　　オリーブ

きつく抱く　頬に感じる君の髪　俺　震えるな、震えるな、俺　兎陸☆

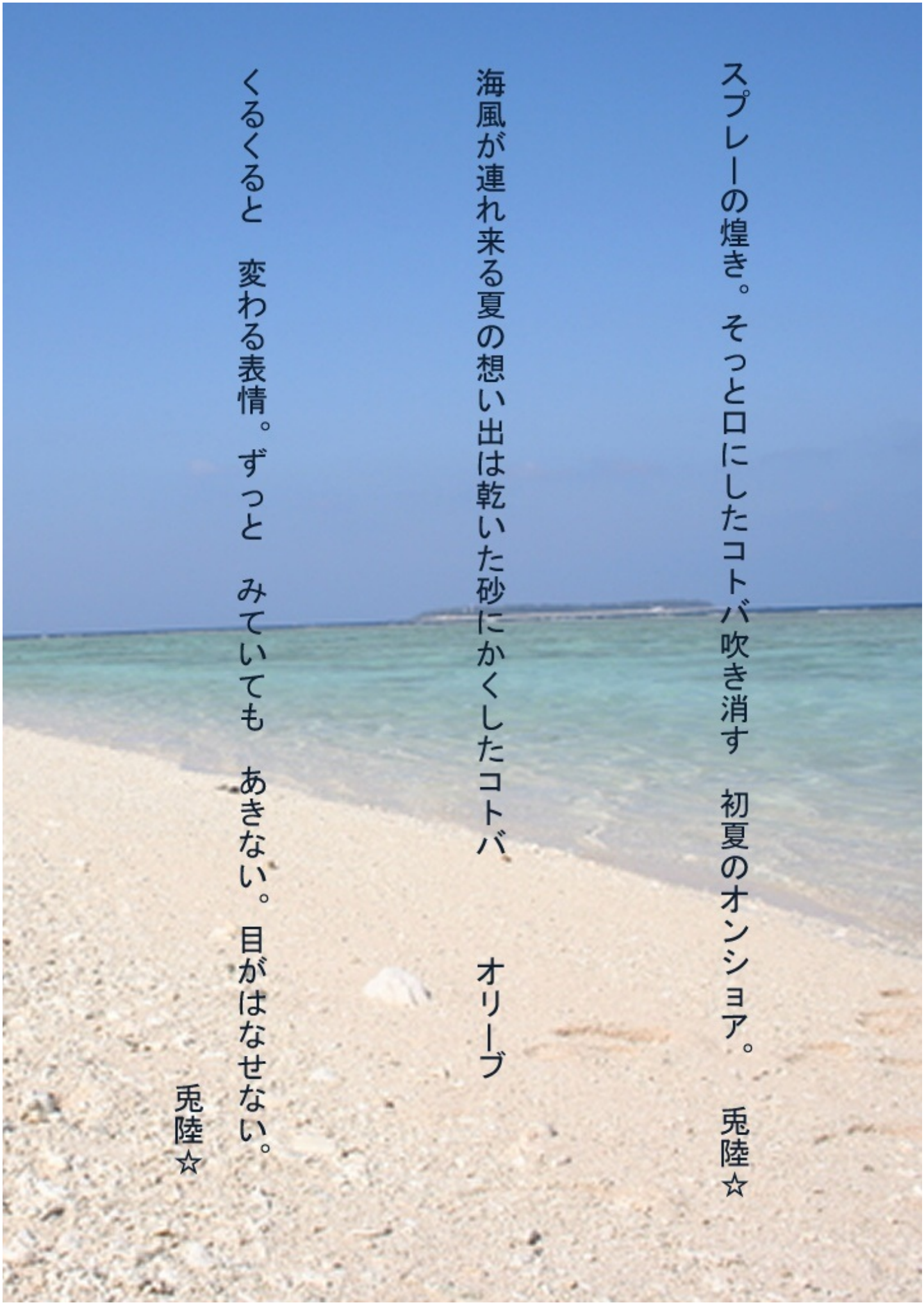
背伸びしてフードを被せてくれた君　潤んだ瞳『いつもと逆だね。』　　兎陸☆

コトバはねもういらないよ分かるから。点滅消えた信号渡ろう　　オリーブ

あくびして『ホッとした〜っ。』って。。。。君にホッをあげられる俺でよかった。

兎陸☆

『目が赤い』鼻つままれてにらんでもゆるんでしまう目と口元と　　オリーブ

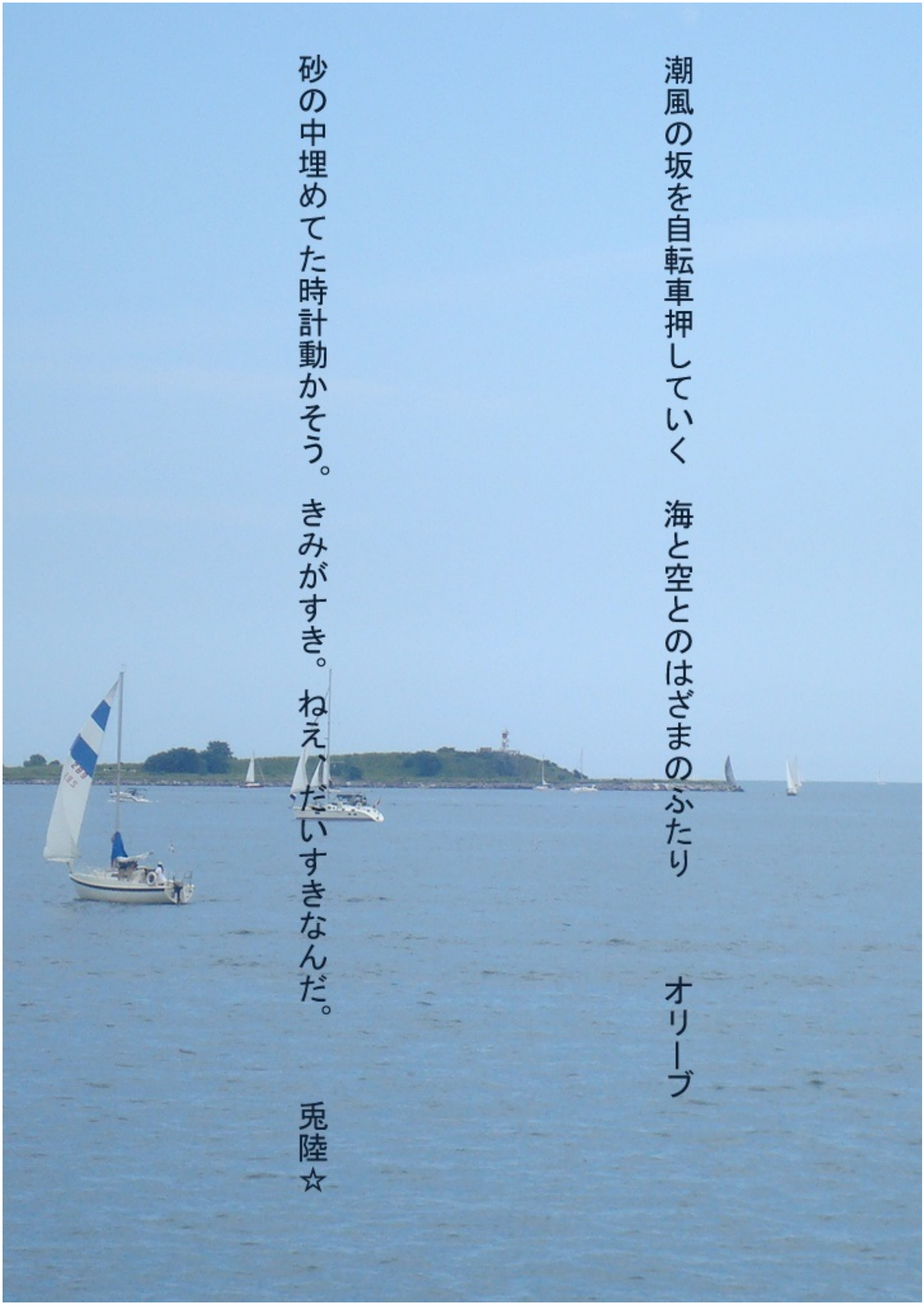


スプレーの煌き。そっと口にしたコトバ吹き消す　初夏のオンショア。　兎陸☆

海風が連れ来る夏の想い出は乾いた砂にかくしたコトバ　オリーブ

くるくると　変わる表情。ずっと　みていても　あきない。目がはなせない。

兎陸☆



潮風の坂を自転車押していく　海と空とのはざまのふたり

オリーブ

砂の中埋めてた時計動かそう。きみがすき。ねえ、だいすきなんだ。

兎陸☆

涙は乾いて、虹になる。

Beyond the Sea

兎陸☆　オリーブ　歌合わせ

2011年4月発行

兎陸☆（trickster）@SIRROINN

オリーブ（olive）@olive_sw

写真

mizutama　http://sora.saiin.net/

写真素材 フォトライブラリー
http://www.photolibrary.jp/

他、オリーブ撮影